

検査室の現状と課題

杉村宗典 済生会奈良病院

当院検査室は、病院所属検査技師が5名、検査センター技師3名、検査員1名の計9名で日常業務を行っている。うち、病院所属技師が行う業務は、検体検査ではCBC・輸血・免疫・一般検査等、生体検査では超音波（腹・心・体表臓器・血管）・PSG（ポリグラフィ）・心電図・トレッドミル・リキッド・脳波・誘発筋電図等である。担当者は固定ではなく（超音波とPSGは役割分担があるが）病院技師全員で実施している。広く浅くではあるが多くの検査に携われる他、以下のような点に力を入れている。

1) 超音波検査について

技師5人中4人が認定超音波検査士であり、認定領域は腹部・心臓・体表臓器である。残り1名も超音波医学会に入会し、乳腺エコーを現在修練中である。腹部・体表臓器領域では学会発表にも取り組んでいる。

2) 眠時無呼吸症候群（SAS）検査について

検査室からも積極的にアプローチを行いPSG（ポリグラフィ）検査を導入した。導入決定後は看護職員等に対する説明会も開催し、理解と協力を得た。PSG検査は装着と解析に時間がかかるが、診療報酬（特に検査点数）が高額な項目である。

3) チーム医療への参加・その他

ICC（感染対策委員会）・ICT（感染対策チーム）への参加、DM教室での講義等も行っている。その他、小児科脳波判読会への出席、耳鼻科的検査を一部実施している。

今後の課題

超音波に限らず、業務内容に即した各種認定資格の取得、学会発表、また外注している検査に関する知識の向上等が課題としてあげられる。